

第10回“夢ブック”読書感想文コンクール入賞作品

(感想文は、原文のまま掲載しております。)

『夢』 いっぱい賞 (最優秀賞)

大東小学校 溝上 蓮 (みぞがみ れん)

おまえたち、くっちゃんぞ～

みぞがみ れん

ぼくはすいぞくかんでわにがめをみたことがあるけど、したがみみずみたいになっているなんて知らなくてびっくりしました。

ぼくはつりにいったことがあるけどつれないときにじっとまつのがつかれます。でもアルはおおきなさかながくるまでじっとまっついてすごいなとおもいました。

アルはあさごはんをたべていなくておなかがすいているとおもうけどベティばあちゃんのことをたべずにやさしいなとおもいました。

ベティばあちゃんがほんもののみみずをたべようとしたときアルがたすけてかっこよかったです。

さいごさかなたちがみみずをたくさんたべられてアルもともだちにおもしろいはなしをしていていいなとおもいました。でも、つぎはアルもおなかいっぱいごはんをたべてほしいなとおもいました。

『夢』どきどき賞(優秀賞)

亀川小学校 田中 涼愛(たなか すずな)

ひとをはげますこと

たなか すずな

わたしは、たんぽぽをみつけるとわくわくします。このほんのひょうしをみて、みんながしあせそうにしていたので、よむことがわくわくしました。

わたげのたねこちゃんが、あたらしいはなをさかせるためのおはなしです。さいしょはしんぱいばかりしていたので、とぶのはいやでした。でも、とんでいったさきで、やさしいひとにであい、まえむきになりました。

わたしのまわりには、たねこちゃんほど、うしろむきことばのこは、いません。あたらしいひとにであってみれば、きづいていなかったつよさにきづけるときもあるとおもいました。ぎんごけのおじさんのように、はげますことばのちからが、すごいひとになりたいです。なぜなら、わたしがこけたときにはげましてくれたひとがいて、もういちどやってみようとおもえたからです。

『夢』どきどき賞(優秀賞)

亀川小学校 宮本 涼花 (みやもと すずか)

「どうぶつのわかっていることわかっていないこと」をよんでかんがえた

みやもと すずか

わたしは、どうぶつがだいすきです。だから、このほんをわくわくしながらよみました。

とくに、わたしがきになったのは、「せかいにはわかっていないことがたくさん」のところ。なまけものせなかからでるおれんじいろのあぶらがなんなのかわかっていないんだね。わたしは、3つかんがえました。

ひとつめは、あぶらがいいにおいで、おともだちをよぶんじゃないかな。そして、おともだちがふえるんじゃないかなとおもいました。

ふたつめは、すごくたべたいえさがあつまってくるんじゃないかなとおもいました。だからえさをとりにいなくて、おなかいっぱいになって、なまけていられるよ。

みつめは、なまけものおれんじいろがすきなんじゃないかなとかんがえました。わたしだったら、むらさきいろがでてきてほしいな。むらさきいろのあぶらをゆびでとって、いしにえをかきたいな。ぶどうとなすびとかいじゅうをかくよ。なまけものもおれんじいろのあぶらでえをかいているかもしれないな。

かんがえるのは、とてもたのしいです。つぎは、いるかは、なんでひだりのひれでなかまをなでるのかかんがえたいです。

『夢』きらきら賞(奨励賞)

日方小学校 松本 珠璃 (まつもと じゅり)

ふしぎなかさやさんをよんで

まつもと じゅり

なぜこのほんをえらんだかという、おもしろそうだとおもったからです。このほんにでてくるレミというおとこのこは、あめがきらいです。なぜかというあめがふったらそとにあそびにいけなくなるからです。わたしもあめがふってきたらそとにでれなくて、くやしいからです。

おはなしにでてくるくろねこは、レミにいじわるをします。あめのわるぐちをいったからだわたしはおもいました。きつとくろねこは、あめがすきだからとおもいます。わたしもすきなぶうるのわるぐちをいわれたらいやなきもちになります。

でも、くろねこのかいぬしのおじさんはおしえてくれました。あめは、まちをうるおし、うみへながれ、やがてくもとなって、ふたたびまちをうるおす。すべてのいのちのもとなんだよ。あめがふってそとにあそびにいけなくなるのは、いやだけどこのあめがだれかのいのちのもとになることは、いいことだとおもいました。

レミはおかあさんにつぶつぶのにじいろのかさをかけてもらいました。そして、レミはこのかさをさすときに、おじさんつぎはどこに行くのかなとおもいました。わたしも、かさをさしたらくろねこのことをおもいだします。

『夢』きらきら賞(奨励賞)

亀川小学校 前山 季璃(まえやま きり)

ふしぎなかさやさんをよんで

まえやま きり

わたしはレミみたいに、あめのひがきらいです。がっこうへいくときとかえるときにあめがふってきたら、かさをさしてもランドセルなどがぬれるからです。そとあそびもできません。でも、ふしぎなかさやさんみたいにくろねこがてんいで、いろいろなかさをひらくと、そのせかいをみれるのはとてもたのしそうだなおもいました。あめのわるぐちをいったら、くろねこがへそをまげてあらしをおこすのはこわいけれど、レミがおじさんといっしょにねこのいたずらをとめられてよかったです。さいごににじをみて、レミがしあわせなきもちになりました。

こんどあめがふったら、わたしのむらさきいろとねこがらのかさをひらいて、おはなばただねこがあそんでいるところをみてみたいとおもいます。そしてにじがみれたらラッキーです。あめのひがすきになるかもしれません。

どうぶつのわかっていること・わかっていないこと

おか かんた

ぼくは、ボノボとチンパンジーのはなしがきになりました。なぜかというとぼくはさるどしだからです。チンパンジーとボノボはみためがそっくりなのに、せいかくがぜんぜんちがうのは、なんでもかわかっていないそうです。

チンパンジーは、たべものをとるとき、けんかをする。ボノボはけんかをせずにはんぶんこしてたべる。それは、いいたべかただとおもいます。

ぼくもおもちゃをいところにとられて、けんかをします。けんかをしたら、すごいいやなきもちになります。まけたらかなしいし、ひと

りぼっちになったらさみしいです。

けんかもだいじやおもいます。けど、ぼくは、ボノボみたいに

やさしいせいかくになりたいとおもいます。